

九州教育学会 第76回大会 プログラム

第1日 11月9日(土)

9:00-	受付開始		
9:30-12:00	自由研究発表		
(11:30)	第1分科会	教育哲学	1 3 1 教室
	第2分科会	教育社会学	1 3 2 教室
	第3分科会	教育方法(教育課程)	1 3 3 教室
	第4分科会	比較教育	1 4 1 教室
12:00-13:00	昼食・休憩		
13:00-13:50	総会	1 2 1 教室	
14:00-17:30	総合部会	1 2 1 教室	
18:30-20:30	懇親会	ダイニングカフェ彩	熊本市役所 14階

第2日 11月10日(日)

9:00-	受付開始		
9:30-12:00	自由研究発表		
(11:30)	第5分科会	教育史	1 3 1 教室
	第6分科会	社会教育	1 3 2 教室
	第7分科会	教育経営・行政	1 3 3 教室
12:00-13:00	昼食・休憩		
13:00-15:00	ラウンドテーブル		
	I. 答えが一つではない道徳的な課題に向き合う道徳科授業の可能性		1 3 1 教室
	II. 教職大学院における「研究」の今		1 3 3 教室

2024年11月9日(土)・10日(日)

熊本学園大学

目次

大会参加者の皆様へ	2
熊本学園大学案内地図	4
会場（新1号館）案内地図	5

<第1日目>

【第1分科会】教育哲学、【第2分科会】教育社会学	7
【第3分科会】教育方法（教育課程）、【第4分科会】比較教育	8
総合部会（公開シンポジウム）	9

<第2日目>

【第5分科会】教育史、【第6分科会】社会教育	11
【第7分科会】教育経営・行政	12
ラウンドテーブル	13

大会参加者の皆様へ

1. 受付

受付は、第1日目（11月9日）、第2日目（11月10日）ともに、午前9時から行います。場所は、熊本学園大学新1号館みらい2F（121教室前）です（4頁～6頁の案内図を参照下さい）。

2. 大会参加費、懇親会費

(1) 大会参加費は次の通りです。参加受付の際にお支払い下さい。

- ① 一般会員 3,000円
- ② 学生会員・臨時会員 1,500円

(2) 懇親会費は5,000円です。

※準備の都合上、今大会ではインターネット上の「大会参加申込フォーム」で事前に参加申し込みをしてくださるようお願いいたします。申し込みは、**10月25日(金)まで**とします。事前申し込みが間に合わなかった場合には当日受付もいたしますが、スムーズな大会運営のため事前申し込みにご協力ください。なお、参加費は大会当日に受付にて現金でお支払いください。

◎大会参加申込フォーム URL:<https://forms.gle/hgAQ976VVrfn7xkm9>

※申込フォームは九州教育学会公式 web サイトの大会案内ページや、QRコードからもアクセスできます。



3. 発表要領

(1) 自由研究発表の時間

- 発表時間 個人研究発表 30分（発表時間20分／質疑応答10分）
- 共同研究発表 60分（発表時間40分／質疑応答20分）

(2) 発表資料

発表資料は50部用意し、当日、発表部会スタッフにお渡し下さい。

4. 昼食

学内の食堂は利用できませんが、学内のコンビニエンス・ストア（学生会館1階）は利用可能です。また会場の目前に大型スーパーがあります。

5. 会場

- (1) 自由研究発表の会場は、131、132、133、141教室です。
- (2) 総会と総合部会（公開シンポジウム）の会場は、121教室です。
- (3) 会員控え室は、13Aです。ご利用下さい。
- (4) 懇親会（第1日目18:30～20:30）の会場は、ダイニングカフェ彩（熊本市役所14階）です。奮ってご参加下さい。

6. 宿泊案内

宿泊先については、大学近辺よりも JR 熊本駅周辺や桜町バスターミナル周辺にホテルが多くあり、大学へはそれぞれからバスの移動が便利です。ホテルへ直接ご予約ください。

7. 交通機関

* 駐車場のご利用について

大会校では、学会参加者の駐車場利用が不可となっております。大会校にお越しの際は、この点に十分ご注意ください。

〈熊本桜町バスターミナルより〉

【タクシー利用】 約 15 分

【熊本都市バス利用】 15 のりば 約 20 分

◎子飼渡瀬線（こかいわたるぜせん）バス停「学園大前」下車

◎大江城西線（おおえじょうせいせん）バス停「学園大前」下車

◎渡鹿長嶺線（とろくながみねせん）バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約 5 分

◎東西線（とうざいせん）バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約 5 分

【産交バス利用】 15 のりば 約 20 分

◎熊本整形外科・託麻原本通經由 約 20 分 → バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約 5 分

◎子飼橋・託麻原本通經由 約 20 分 → バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約 5 分

〈九州新幹線・JR 鹿児島本線 熊本駅より〉

【タクシー利用】 約 15 分

【熊本都市バス利用】 6 のりば（白川口） 約 20 分

◎熊学ライナー熊本駅-熊学ノンストップ バス停「学園大（キャンパス内）」下車

◎第一環状線（大学病院回り） バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約 5 分

◎中央環状線（大学病院回り） バス停「学園大前」下車すぐ

〈JR 豊肥本線 水前寺駅より〉

【同駅北口より徒歩】 約 10 分

【同駅北口より熊本都市バス利用】 約 3 分

◎（大江城西線） バス停「学園大前」下車すぐ

〈熊本市電〉

◎電停「味噌天神前」下車 徒歩約 15 分

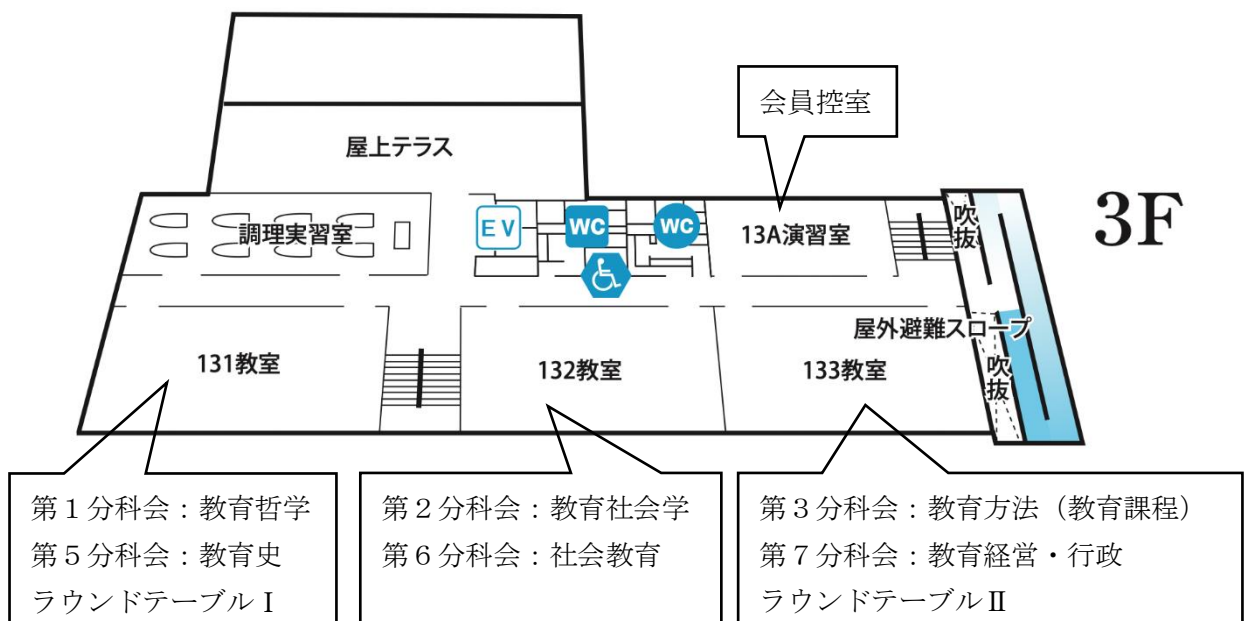
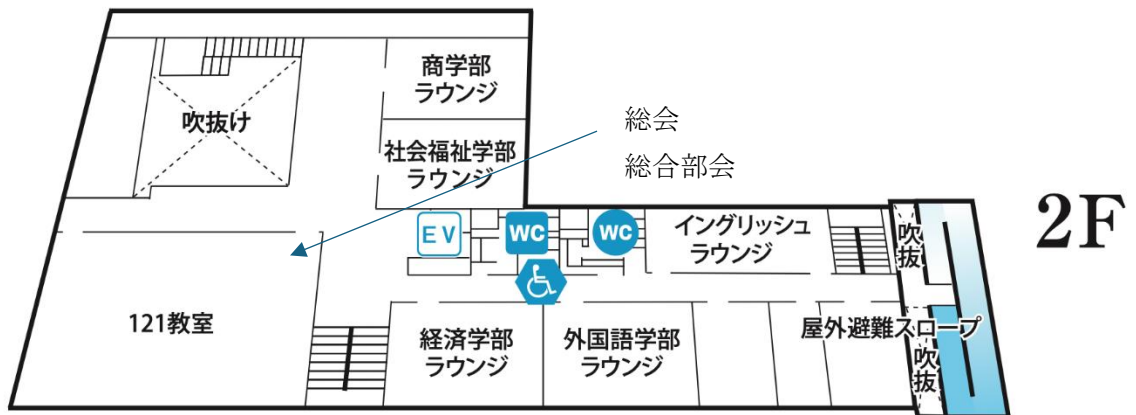
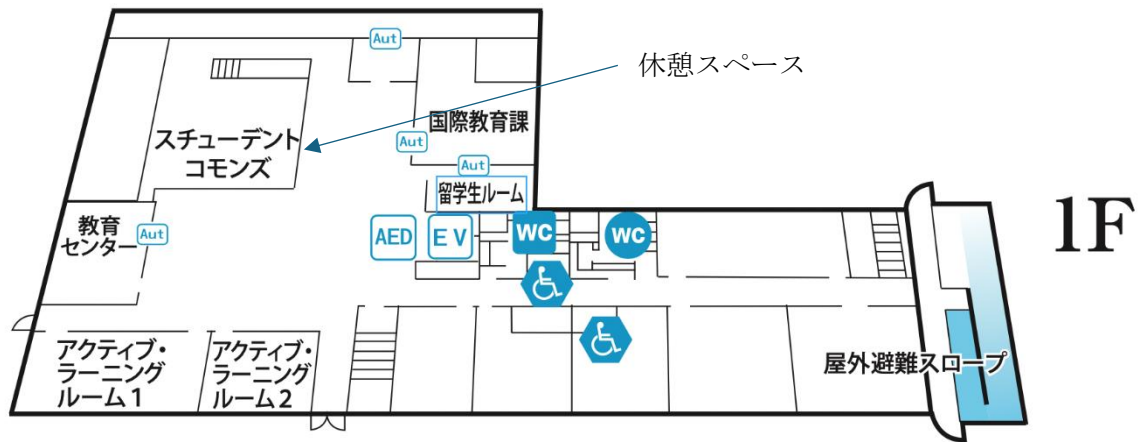
※詳しくは熊本学園大学HP「アクセスマップ」をご覧ください。

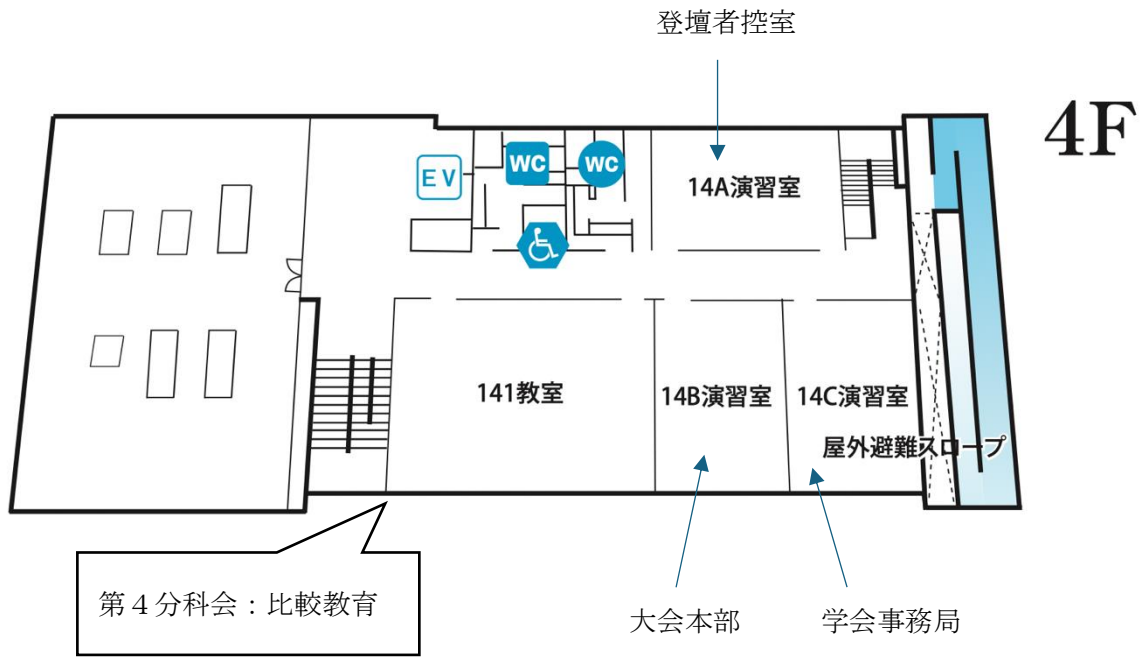
<https://www.kumagaku.ac.jp/daigaku/map/access>

熊本学園大学案内地図



新1号館案内図





自由研究発表：1日目（11月9日 土曜日）

【第1分科会】 教育哲学

131教室

司会：定方 太希（九州看護福祉大学）

①9：30－10：00

戦後民間教育運動の分断を生成した思想的相克－同和教育運動をめぐる争点を事例として－
板山 勝樹（名桜大学）

②10：00－10：30

省察の形式化に対する批判的検討－G. ビースタの「実存的省察」概念を手がかりに－
茂見 剛（尚綱大学）

③10：30－11：00

「意欲的に学ぶ子ども」という思想についての考察
岡野 亜希子（近畿大学）

④11：00－11：30

隠れたカリキュラムは「教える-学ぶ」関係を相対化できるか
－レヴィ＝ストロースの「過剰なシニフィアン」を導きとして－
齋藤 圭祐（九州大学大学院）

〈11：30－12：00 総括討論〉

【第2分科会】 教育社会学

132教室

司会：片桐 真弓（尚綱大学短期大学部）

①9：30－10：00

保育・幼児教育を通じた伝統文化の継承と持続の可能性
－地域との協働 沖縄県竹富町小浜島の事例を手掛かりに－
佐久本 邦華（沖縄キリスト教短期大学）

②10：00－10：30

農村地域在住の芸術家による芸術活動と地域振興の可能性 I
－鹿児島県湧水町の事例から－
植村 秀人（南九州大学）

③10：30－11：00

専門学校を拠点とした地域活性化の取組み
植上 一希（福岡大学）

〈11：00－11：30 総括討論〉

自由研究発表：1日目（11月9日 土曜日）

【第3分科会】 教育方法（教育課程）

133教室

司会：清水 良彦（九州大学）

①9：30－10：00

「身体知としての言葉」を育む語彙学習の開発
－オイリュトミーと野口体操に学んで－

秦 恭子（日本学術振興会）

②10：00－10：30

高等学校における個別最適な学びについて

松尾 祥子（福岡県立柏陵高校）

③10：30－11：00

高校数学の授業における思考に関する一考察

近藤 圭太（九州大学大学院）

④11：00－11：30

生徒が主体的に参画する学校づくり－目的で貫く中学校生徒会活動を通して－

小島 孝介（熊本大学大学院）

〈11：30－12：00 総括討論〉

【第4分科会】 比較教育

141教室

司会：花井 渉（九州大学）

①9：30－10：00

戦後日本における教育学者の数量的実態：ドイツとの歴史的比較の観点から

鈴木 篤（九州大学）

②10：00－10：30

タイの国境地域におけるミャンマー児童・生徒の就学の実態

－ターク県における2024年3月調査から－

森下 稔（東京海洋大学）

③10：30－11：00

中等教育において自己肯定感を高める教育課程編成に関する比較考察

長濱 博文（桐蔭横浜大学）

④11：00－11：30

高等学校における探究学習の現状と課題

緒方 泰士（九州大学）

〈11：30－12：00 総括討論〉

< 総合部会（公開シンポジウム） >

日時：11月9日（土）14:00—17:30

会場：新1号館121教室

「多文化共生」に教育学研究はどうアプローチできるか

—教育学研究のアクチュアリティを問い直す—

司会：福田紗耶香（長崎大学）

椋木香子（宮崎大学）

<シンポジスト>（報告内容の構成上、前後する可能性があります）

大森万理子（広島大学）

金 美連（熊本学園大学）

佐藤 仁（福岡大学）

指定討論者

長谷川祐介（大分大学）

企画設定の趣旨

近年、日本においても社会構成員の多国籍化や社会の「多文化化」が進んでいる。2023年10月13日に出入国在留管理庁が公表した報道発表資料では、2023年6月末時点において在留外国人の数は計322万3858人（中長期在留者数293万9051人、特別永住者数28万4807人）となり、過去最高の値を更新したとされる。また、在留カード及び特別永住者証明書上に表記された国籍・地域の数は計195か国となった（無国籍を除く）¹。こうした状況の中、今大会の開催地となる熊本県では、台湾を本拠地とする世界的企業の大規模工場の開設が注目を集め、地域に大きなインパクトをもたらしている。

こうした中、マジョリティの生活様式やアイデンティティなどを中心としてきたこれまでの社会のあり方と、それとは異なる生活様式やアイデンティティを大切にする人々が前提とするあり方とが、必ずしも同一のものでないことも（改めて）意識されるようになってきている。そして、前者を「正統」とみなし、後者を「異端」とみなすのではなく、人々が前提とする様々な社会のあり方が等しく尊重されるような「多文化共生」が重要視され、その方途が模索されているのである。

もともと、マジョリティの生活様式やアイデンティティを中心とした社会において、マイノ

リティとしての立場を余儀なくされ、そのニーズや文化が不可視化されてきたのは、外国につながる人々のみではない。女性や、LGBTQ、障害者など、様々な人々がこれまでそうした状況に置かれてきたと言えるだろう。しかし、そうした人々の存在もまた、近年の社会状況の変化の中で、徐々に可視化されるようになってきている。

たとえば長らく女性を主として家庭の内部に閉じ込めていた圧力が和らぐ一方、各種産業の担い手不足に端を発する女性労働力への要請が生まれると、今度は逆に「女性の活躍」や「女性の社会参加」が求められるようになり、職場や社会生活において（少なくとも表向きは）女性の視点の尊重が求められるようになった。そして現在、男性／女性といった二分法には収まらない多様なアイデンティティや性的指向の存在も知られるようになり、様々な人々の共生が重要な課題として認められるようになってきている。

また、これまで障害やハンディキャップのある人々は、その程度が重度であれば各家庭や各種の施設にとどまるよう強いられ、軽度であってもそうした障害やハンディキャップが否定的に捉えられるなど、その差異を人々の目から隠すように強いられてきた。しかし、インクルーシブ教育に関する各種の施策が国際的に求められるようになる中、徐々にそうした差異の存在もまた可視化されるようになってきた。そして、そうした差異の存在を前提として、社会の中での共生の方法が探られるようになってきているのである。

こうしたジェンダー問題やアイデンティティ・性的指向、各種の障害やハンディキャップによって生まれる個々のニーズを「文化」とくくり、「多文化共生」の名の下で扱うことには異論もあるかもしれない。しかし、マジョリティが自明視する生活様式やアイデンティティのみを「正統」とみなしてきたこれまでの社会で、不可視化されてきた様々な生活様式やアイデンティティを等しく「正統」なものとし、それらの共生を目指す現在の方向性と「多文化共生」とは、目指す社会のあり方において大きく重なる部分を持つものと思われる。

そして、こうした「多文化共生」は、教育システムと政治・経済・福祉などの他の社会システム、学校教育と社会教育、教科学習と教科外活動などのいずれにも等しく関わるものであり、学問としての教育学の重要な研究対象となるものでもあろう。

もともと、これまでの細分化された教育学研究においては、たとえば教育社会学等をはじめとする特定の部分領域においては積極的に検討が行われる一方、そうしたテーマをほとんど研究対象としてこなかった部分領域も存在する。だが、上で述べたように、「多文化共生」は教育システムと政治・経済・福祉などの他の社会システム、学校教育と社会教育、教科内活動と教科外活動などのいずれにも等しく関わるテーマであり、本来はいずれの部分領域においても検討に値する重要なテーマであると思われる。そこで、教育学に関する総合学会としての本学会では、開催県である熊本の教育現場で外国につながる子どもたちの対応が課題になっていることも加味し、今回の総合部会のテーマとして「多文化共生」に焦点を当て、「多文化共生」に教育学研究はどうアプローチできるか—教育学研究のアクチュアリティを問い直す—との題のもとで検討を行いたい。

1 出入国在留管理庁（2023年10月13日）「報道発表資料『令和5年6月末現在における在留外国人数について』」（2024年4月2日閲覧）

URL : https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00036.html

自由研究発表：2日目（11月10日 日曜日）

【第5分科会】 教育史

131教室

司会：草野 舞（尚絅大学短期大学部）

①9：30－10：00

親への助言―初期近代イングランド家政論における親であることと子育て―

柴田 賢一（常葉大学）

②10：00－10：30

郷土読本における口承文芸の教材化

～筑紫郡水城尋常高等小学校『郷土読本』の苺萱譚～

弓削 淳一（筑紫女学園中学校・高等学校）

③10：30－11：00

戦後改革期における高校職業教育と地域 ―中等教育研究集会に着目して―

日永 龍彦（山梨大学）

〈11：00－11：30 総括討論〉

【第6分科会】 社会教育

132教室

司会：中山 博晶（九州大学）

①9：30－10：00

4年間のポケットオルゴールの製作と寄贈活動のまとめ

山之内 幹（南九州大学）

②10：00－10：30

専門学校卒業生の「好き」を動機としたキャリア形成に関する一考察

小田 茜（久留米大学）

③10：30－11：00

農山村地域における暮らしと共にある教育環境に関する一考察

鎌田 宣佑（九州大学大学院）

④11：00－11：30

子どものICT学習を支える居場所づくりに関する事例研究

～デジタルユースワーク及びコンピュータクラブハウスの海外実践の分析を通じて～

松嶋 駿（九州大学大学院）

〈11：30－12：00 総括討論〉

自由研究発表：2日目（11月10日 日曜日）

【第7分科会】 教育経営・行政

133教室
司会：原北 祥悟（崇城大学）

①9：30－10：00

学校事務におけるカリキュラム・マネジメント
～多様な職種の協働で創る教育課程～

餅井 京子（九州大学大学院・学術協力研究員）

②10：00－10：30

アメリカでの学校生活に伴う在外邦人家族の葛藤

鶴田 百々（中村学園大学）

③10：30－11：00

現代教員養成の「開放制」原則に関する一考察
—行政と大学外機関の協働を通して—

小椎葉 大樹（九州大学大学院）

〈11：00－11：30 総括討論〉

ラウンドテーブル：2日目（11月10日 日曜日）13:00-15:00

ラウンドテーブルⅠ

131教室

答えが一つではない道徳的な課題に向き合う道徳科授業の可能性

企画提案者：山岸 賢一郎（福岡大学）

発表者：塚野 慧星（福岡女子大学）他

ラウンドテーブルⅡ

133教室

教職大学院における「研究」の今

企画提案者：野々村 淑子（九州大学）

山城 千秋（熊本大学）

大竹 晋吾（福岡教育大学）

雪丸 武彦（西南学院大学）

植村 秀人（南九州大学）

岡 幸江（九州大学）

発表者：金井 義明（熊本大学）

野口 博明（福岡教育大学）

九州教育学会 第76回大会 プログラム

発行：2024年9月

発行者：九州教育学会 第76回大会準備委員会

委員長 藤井 美保（熊本大学）
事務局長 今井 伸和（熊本大学）
準備委員 片桐 真弓（尚絅大学短期大学部）
金 美連（熊本学園大学）
草野 舞（尚絅大学短期大学部）
茂見 剛（尚絅大学）
苫野 一徳（熊本大学）
波多江 俊介（熊本大学）
宮川 幸奈（熊本学園大学）
山城 千秋（熊本大学）

九州教育学会第76回大会準備委員会事務局

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

熊本大学教育学部 教育学講座

E-mail: kkbear76@kumamoto-u.ac.jp